

## ご議論いただきたい論点(案)

## 1. 周産期医療の提供体制のあり方について

「周産期医療体制整備指針」(平成 22 年)に基づき、総合周産期母子医療センター、地域周産期母子医療センターの整備は進み、妊産婦死亡率や周産期死亡率も低下してきたが、一方で、分娩件数は減少し、分娩取扱施設数も減少している。また、産婦人科医は増加傾向ではあるが、分娩を取り扱う医師の偏在は続いている。それを踏まえ、安心安全な分娩環境を提供するため、周産期医療の提供体制のあり方について、どう考えるか。

## (1) 地域における分娩取扱医師偏在と施設のあり方について

- ・都市部や地方など、地域によって周産期医療体制を取り巻く環境は大きく異なることから、それぞれの特性を十分に考慮した体制が必要ではないか。また地方で分娩取扱医師等を確保するためにはどのような方策が必要か。
- ・総合周産期母子医療センターや地域周産期母子医療センターが、これまでに以上に分娩の中心的な役割を果たすためには、地域において、どのような対応が必要か。
- ・分娩施設へのアクセスをどのように確保すればよいか。

## (2) 周産期医療体制における多職種・診療間の連携について

- ・助産師外来、院内助産所をどのように活用すべきか。産科医、他科医師との連携についてどのような体制が必要か。
- ・助産所による分娩時における緊急時の対応についてどう考えるか。
- ・特に、産科医不足地域では、健診から分娩まで地域で対応するため、開業医、助産所も組み込んだネットワーク等一体的に妊婦をサポートする仕組みが必要ではないか。

## 2. 周産期医療体制と他分野(救急、災害)との連携について

妊産婦死亡症例では産科危機的出血や脳出血が主要な原因であるなど、分娩時には予期せぬ緊急的な対応が必要なことを鑑み、救急等との連携はどのように確保すべきか。また、災害時における妊婦や新生児に対する体制について

どのように考えるか。

(1)産科危機的出血への準備と搬送体制

- ・輸血や血管塞栓術の体制整備、救命救急センターとの連携についてどう考えるか。

(2)災害時の対応について

- ・災害拠点病院との連携など周産期災害連絡体制をどのように確保すべきか。

3. 中長期的な視点から、今後の周産期医療体制が直面すると予測される問題は何か、またその対策について